

平成 28 年度健康づくり実態調査項目の考え方

健康日本 21（第 2 次）では、健康寿命の延伸の他、社会環境の質の向上、健康格差の縮小の重要性が強調されている。社会環境・健康格差等の把握のために、国の健康日本 21（第 2 次）の現状値のデータソースとなった調査票等を参考にした調査項目を入れ、全国値と兵庫県値を比較することで兵庫県の健康課題を明らかにすることが重要である。

また、県内の特定健診データを活用した解析結果では、メタボ該当者や血圧高値などの生活習慣病リスク因子において地域格差が生じていることが明らかとなっている。

したがって、この地域格差の背景要因を探るためにも、社会環境・健康格差等の把握は重要である。



そこで、成人の調査項目については、社会環境・健康格差等の把握として、「地域のつながり」、「健康や医療サービスに関係したボランティア活動」に関する質問、高齢者の社会参加に関する質問、＜基本属性、健康の社会的決定要因＞の把握に関する項目を入れ、健康状態や生活習慣等の健康格差について把握することとした。その他、兵庫県の健康課題であるがんに関する項目についても拡充している。

未成年の調査項目については、飲酒・たばこの他、睡眠の質やメディアに関する生活習慣の項目を拡充している。

参考：【都道府県・市町村等における社会環境・健康格差の把握等に関する指針】

○調査項目数

	28 年度	23 年度
成人	47（うち新規 23）	55
未成年	34（うち新規 26）	45

※上記の項目数に自殺に関連する項目を約 10 項目追加予定（担当課：いのち対策室）

○健康日本 21（第 2 次）と県実施計画の評価指標数

	指標数	実態調査項目ベース
国	55	—
県	168	24（成人 20、未成年 4）

○平成 23 年度調査の実施状況

対象区分	配布数	回収数	回収率
成人	5,000	2,333	46.7%
未成年	3,000	1,431	47.7%